

ご存じですか？ 10月は「食品ロス削減月間」！

10月は「食品ロス削減月間」です。実は町田市でも、1人1日あたり、おにぎり約1個分(約100g)のまだ食べられる食品が廃棄されています。「おいしく食べ切る」「必要な分だけ買う」といった日々のちょっとした工夫で、食品ロスは減らせます。この月間をきっかけに、今の暮らしに合った心地よい食習慣を、一緒に考えてみませんか。

★町田市では、こんな取組も推進中！

mottECO (モッテコ)

外食先でご飯が食べきれなかったとき、利用者とお店の相互理解で持ち帰る、環境省が推奨するアクションのことを指します。



POINT

飲食時に大切なのは、まず食べきること。それでも食べきれなかった料理は、持ち帰って食べきる。それが当たり前の世の中をつくるために、様々な事業者等と連携した取り組みを行っています。

mottECOの持ち帰り専用容器を使った実証実験を実施中！

詳細はこちら

10月3日はさんあーるまつり！ バイエネ君にお越しください。

日時 10月3日(日)
10:00 ~ 15:00
場所 町田市バイオエネルギーセンター
(下小山田3160番地)

⇒こちら以外にもゲームやブースがあるので遊びに来てくださいね。

清掃工場の煙突に登ろう！
(要予約)



食品ロス削減講習会
(要予約)
講師は
食品ロスジャーナリスト
井出留美さん
10:15 ~ 11:45

スケルトンごみ収集車
みえるくんの収集体験



ダンボールコンポスト講習会受講していただいた町田市民の方には、1家族につき1個ダンボールコンポストを無料でお渡しいたします。



多摩境敬愛保育園の子どもたちが「ダンボールコンポスト」に取り組んでいます

多摩境敬愛保育園では3R推進係で行っている『3R講座』の受講をきっかけに、生ごみを堆肥化する「ダンボールコンポスト」を開始しました。遊びや生活の中で自然に環境意識を育む、その活動の様子をレポートします。

学びの第一歩：3R講座の受講

- ①ごはんは全部食べよう
 - ②ものを大切にしよう
 - ③仲間同士に分けよう
- と子ども向け3Rを学びました。
ごはんを全部食べることは食品ロス削減につながります。
子どもにもできる3Rです。
『お皿ピカピカにする！』

『残ったごはんはごみになっちゃう！』ときちんと理解してくれた園児たち。スケルトンごみ収集車のみえるくんの中はどうなっているのかな？
『ごみを食べてた！』
『大きかった！』
『中にごみがいっぱい入ってたよ』
ごみを集めている様子がわかりました。



実践：ダンボールコンポストへの挑戦

園ではさらに学びを深めるために『ダンボールコンポスト』にチャレンジ！ダンボール箱に基材を入れ、微生物の力で生ごみを分解・堆肥化する仕組みです。園児たちは毎日野菜くずなどをコンポストへに入れていきます。シャベルでかき混ぜる作業は、今や子供たちの楽しみの一つ。数日で生ごみが消え、土が温くなる様子を観察することで、目に見えない微生物の働きを肌で感じています。
入れた生ごみはどうなるのか、温度を測ったり、ごみがどうなるか観察し記録しています。



『3R講座』と『ダンボールコンポスト』のご案内

町田市では、ごみの減量や資源化、環境問題への理解を深めていただくため、専門知識を持つ職員が皆さまの元へ伺う「3R講座」を実施しています。幼稚園・保育園の環境学習や学校の授業や地域の学習会、コミュニティ活動にぜひご活用ください。

またダンボールコンポスト講習会も随時開催しております。受講していただいた方にはダンボールコンポストをプレゼントしています。(町田市民に限り1家族1個)ぜひダンボールコンポストに取り組んでみてください。ダンボールコンポストに関することはホームページをご覧ください。



教育的効果

この取り組みは、ごみの減量だけではなく、自分たちが食べたものの残りが土になり、その土がまた新しい野菜や花を育てる力になるという「命の循環」を学ぶ貴重な機会となっています。園の担当者は「子供たちの環境に対する意識は驚くほど高まっています。家庭でもごみの分別を呼びかける姿が見られるなど、小さな活動が大きな変化を生んでいます」と手応えを語ります。地域と連携したこの取り組みは、持続可能な社会を目指す町田市の新たな希望となっています。

2027年1月から、粗大ゴミ処理手数料の一部が変更となります

近年のライフスタイルの変化により、現行の料金体系で想定した標準的な重さや大きさを上回る粗大ごみが増えていることを背景に、重さや大きさに応じた公平な手数料となるよう、粗大ごみ処理手数料のうち、戸別収集手数料を変更します。

※変更を行うのは、粗大ごみの戸別収集手数料です。バイオエネルギーセンターへに持ち込む場合の手数料については変更はありません。

2026年4月から分別を始めた地域の 容器包装プラスチックの資源化

～回収した容器包装プラスチックはどうなっているの？～

町田市バイオエネルギーセンター ➡ 大型車に積替え ➡ 民間処理施設でバール化

➡ 再資源化事業者 ➡ 資源化

現在の再資源化事業者(リサイクラー)は、コークス(製鉄用固形燃料)、化学品原料、ドライアイス、液化炭酸ガス、アンモニアに資源化しています。

※再資源化事業者は、毎年、容器包装プラスチックリサイクル協会で入札を行うため、変更になります。

資源化の流れ

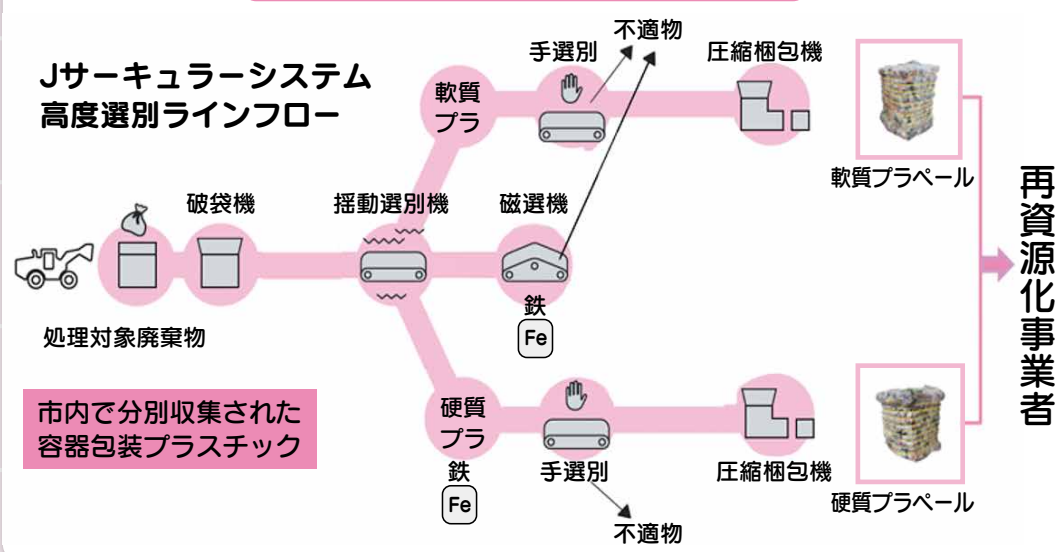
市 民



バイエネ君(ストックヤード)



民間施設(中間処理)



再資源化事業者

- ・株式会社Jサーキュラーシステム
- ・株式会社レゾナック



コークス
(製鉄用固形燃料)



ドライアイス



アンモニア
(NH₃)

容器包装プラスチック分別収集開始その後の現状

2026年4月から、市内全域での容器包装プラスチックの分別収集が始まり、町田市バイオエネルギーセンター(清掃工場)には、沢山の容器包装プラスチックのピンクの袋が運ばれてきています。皆さん本当に、ご協力ありがとうございます。

しかし！！

一部の袋の中には、容器包装プラスチックではない物や、汚れのひどい物がまだまだ沢山あひつています。誤った分別をしまうと、せっかく資源として出したものを、**ごみ**として戻ってきてしまいます。**排出前に今一度、正しい分別の確認をお願いいたします。**

ホース？
布製力バン？



ブルーシート？



衣類？



●戻り残さの周期は3日
で2トン程度(天蓋コン
テナ車1台分)です。

容器包装プラスチック(ピンク)の袋の中に入っていた、不適物の一例をご紹介します。